

看護部だより

# ひまわり



2012年9月

発行責任者：小牧加代子

Vol. 20

## 「院内トリアージのためのアセスメントと緊急度判定」研修参加後の取り組み

外来 久保洋子師長

7月22日、福岡ソフトリサーチパークSRPホールにて「院内トリアージのためのアセスメントと緊急度判定」という研修に参加させていただきました。「院内トリアージ実施料」が今年4月に新設されたこともあり、多数の受講者で関心の高さを感じました。

山口大学大学院医学系研究科教授の山勢博彰先生をはじめ、山口大学大学院医学系研究科講師の立野順子先生を講師に、「トリアジナースの役割と院内トリアージの流れ」「症状アセスメントのポイントと緊急度判定の流れ（1）（2）」「症状別・トリアージの進め方の実際：4症例の演習を通して」といった研修内容でした。

皆様もご存知とは思いますが、「トリアージ」という言葉は、野戦病院システムからの由来で、多くの傷病者に対する重傷者の緊急度の分別と治療の優先順位を決定する「災害トリアージ」と、病状の緊急度を判定して診療の優先順位付けと患者の分類を行う「医療現場でのトリアージ」とあります。当院においては、「START方式」による院内トリアージを実施してきましたが、災害に多く用いられる方式であることから、現段階では、患者の「主訴」に着目し、患者の緊急度判定から、診察の優先順位を決定する「JTAS (Japan Triage and Acuity Scale=ジェイタス)」による院内トリアージへと移行しています。

施設基準作成をはじめ、JTAS・ipad操作方法の教育や、トリアージ記録用紙の作成など、課題が多い中、準備に明け暮れつつ、9月1日、ようやく念願のJTASによる院内トリアージを開始するに至りました。管理日直・当直者をはじめ、救急外来に携わる職員への教育や一次輪番医師、小児科医師へ、院内トリアージ(JTAS)に関しての説明と教育は、現在も実施しています。一度教育を受けたからといってなかなかスムーズにはいかない場合もあるかと思いますが、第一印象からの「重症感」を見逃さない！訓練を日頃から実施していくことが重要になってくると考えます。

日頃している振り分け（トリアージ）を視覚化できるように、「記録」をしっかり実施していくことこそが、重要であると感じました。

今後は、フィジカルアセスメント能力向上に向けた教育や救急担当医師を含めた事後検証などを行い、質の向上に向けていきたいと考えています。

救急外来支援病棟担当看護師でなくても興味のある方、また、繰り返し教育を受けたい方など、希望があれば随時対応していくので、気軽にご連絡下さい。

### JTASのトリアージレベル分類

レベルI-蘇生	生命または、四肢を失う恐れのある状態であり、積極的な治療が直ちに必要な状態
レベルII-緊急	潜在的に生命や四肢の機能を失う恐れがあるため、迅速な治療が必要な状態
レベルIII-準緊急	重篤化し救急処置が必要になる可能性がある状態、あるいは強い不快な症状を伴う場合があり、仕事をするうえで支障がある、または日常生活にも支障がある状態
レベルIV-低緊急	患者の年齢の関連した症状、苦痛を感じる症状、潜在的に悪化を生じる可能性のある状態で1~2時間以内の治療や再評価が好ましい状態
レベルV-非緊急	急性期の状態だが緊急性のないもの、および悪化の有無にかかわらず慢性期症状の一部である場合、精査や治療を先延ばしにしたり、院内の他科または、他の医療機関への紹介で対応可能な場合

日本救急医学会・日本救急看護学会・日本臨床救急医学会監修：緊急度判定支援システム、ヘルス出版より引用



### 親睦会

3階西病棟 松元美智子主任

7月25日(水)に看護部の親睦会を開催しました。今年はカトレア食堂を貸し切り、「アンブレイク」さんにお願いしケータリング料理、オードブル、お刺身、肉料理、パスタ、サンドwich、フルーツなどを準備させていただきました。

参加人数は予定の100名を下回り70名ほどとなりましたが、参加した職員より「食事がとても豪華で美味しかった。」また、夜勤者からも「お弁当、美味しかったです」「弁当+デザートとっても嬉しかった」など多くの声を聞くことができました。自己紹介や「私はだーれ？」ゲーム、じゃんけんゲームなども大変盛りあがり、景品も喜んでもらえたようでした。来年も皆様の期待にお答えできるよう楽しいアイデアいっぱいの親睦会にしたいと思います。





# 教育研修レポート



## ウォーキング

7/5 講師：集中ケア認定看護師  
猿楽大輔



第2回目のウォーキング研修では、  
フィジカルアセスメントについて講義  
を行っていただきました。

内容はフィジカルアセスメントとはな  
にか、フィジカルアセスメントに必要  
な観察の方法・技術・知識について  
など基礎的な講義して頂きました。

グループワークでは事例をもとにデ  
ータの解説・観察の視点について分  
かりやすい講義があり、最終的にその事例に必要な看護について  
説明が行われました。

私自身もウォーキングメンバーと一緒にフィジカルアセスメントにつ  
いて学ぶことができ、とても良い研修になりました。(小浦)

## ホップ

7/26 講師：手術室  
村尾智子師長



看護研究の考え方・テーマ設定、倫理・研究方法、文献検索について講義をしていただきました。看護研究テーマを決める時に看護の視点で疑問や不便に思っていることをテーマにし、そこから様々なアイディアが生まれ改善されていくこと。(時には特許を取ることも！！)その際に先行研究を調べることも大切。そして研究をする上で最も大切なことは倫理的配慮であること。など、看護研究の基礎を学んだ研修となりました。

文献検索についても「日本看護学会論文集」「最新看護牽引Web」がありますので一度検索してみてください。文献検索について詳  
いことが知りたい方は声をかけて下さいね。(有馬)

ランニング 7/12 講師：回復リハビリ病棟  
福永香主任

今回の研修では、リーダーの役割を担う上で必要な役割機能・態度を理解できることを目標として講義をしていただきました。それぞれが自分の長所と短所を挙げたり、エゴグラムを用いて自分がどういうタイプなのか客観的に知ることができたようでした。“リーダーになるための条件”の中にある、決断力や正義感、責任感などはリーダーをしていく中で培われていくものもあると思います。今回学んだリーダーシップ・リーダーの役割をこれからリーダー業務の中で活かしつつそれが自分の理想とするリーダー像をみつけてそれに近づけるように努力していく欲しいと思います。(小山)



## ジャンプ

8/9 講師：外来  
平順幸主任

実習指導案作成をテーマに研修が行われました。週案作成、三観、指導目標、指導計画、日単位の指導計画(日案)の作成。日案は事例をもとに説明していただきました。その後はグループに分かれ、実習指導案(日案)を作成。実習要項や参考書を元に、週案を作成。実習要項だけでは、学生の把握が十分にできなかったり、どのように指導していけばよいのか迷うところもあったようで、指導者に意見をもらいながら真剣に取り組んでいました。作成した指導案は9月27日に発表予定です。今後は学生に対してどの指導者でも同じような指導が実施できる指導案が作成できるよう、頑張ってほしいと思います。担当教育委員としてスムーズに指導案作成ができるよう、研修者と連携をはかっていきたいと思  
います。(西川)



## 専門コース(HCU)

7/28, 8/28 講師：集中ケア認定看護師 猿楽大輔

7/27と8/28にフィジカルアセスメント研修の2回目、3回目の講義がありました。

循環器の講義では、心臓の解剖生理の基礎的な所から、刺激電動系・不整脈、体液管理・血液ガス分析など症例を挙げて事例検討を行い、必要となるケアを学びました。循環器での内容は広範囲であり、参加したほとんどのスタッフが難しかったと感想を言っていました。血液ガス分析・心電図は再度講習して欲しいと言う要望も多く挙げられています。

脳神経系では、脳の解剖と神経系・画像診断や、意識障害について、全病棟でも共通して必要となってくる観察項目を学びました。特に意識障害においては、原因は脳だけではありません。様々な情報を分析していく必要性が良く分かったと思います。

知らないかった人も、知っている人ももう一度「A・I・U・E・O・T・I・P・S」を見直しても再学習できると思います。

専門コースとして行われていた講義ではありましたが、受講希望が多く公開講座として開催され、2回目・3回目と率先して参加する看護師も多くいました。

私自身これまで、分からず仕舞いだった事が、理解できた時の達成感は大きいと実感しています。10/4の講義が最後であり、総復習・補講の場となっている為、興味のある方は是非参加してもらい、今後の看護に活かして欲しいと思います。(下麦)

## アシスタントナース

8/23, 8/30 講師：医療安全管理 城ノ下実千代師長

アシスタントナース研修では、グループワークを行いながらKYT(危険予知訓練)の研修をしていただきました。

日々の業務の中でアシスタントナースの方々に、患者さんのトドク誘導やレントゲンなどの案内や移送・入浴介助など依頼することも多いです。そして、看護をする中で患者さんの変化などを教えていただく事も多い為、とても助かっているのが現状です。

今回は、学生さんやクラーク業務の方たちも参加し、事例の中でどこに危険があるかをKYT学習して頂きました。

研修中は、みなさん積極的に発言され、楽しく学習する雰囲気がありました。

慣れた環境こそ事故が起こってしまう…日々、KYTの意識を持って業務に取り組んではほしいと思います。(下麦)



# NST専門認定士研修に参加して

4東病棟 柏木裕美

栄養は治療回復の源となるものであり、かつ、食は人の生活の糧ともいわれるものであり、患者の心身に重要なものです。しかし、入院中の患者は自己で栄養を管理していくことが出来ない状況にあり、そこをNSTがサポートしていくことが必要であり、その活動の重要性を感じました。

他職種で関わりますが、看護師は患者の状態を観察し、また、直接患者が食事を摂取する場に立ち会い、反応を観察し、経過をみていく立場となります。得られた情報をチームで共有することで、患者の栄養改善に加え、ADLの改善、治療効果、病院経営につながっていると学ぶことができました。

現在NSTの活動として、患者の食べたいと感じるものを準備できるようチーム全体で取り組んでいます。検査のデータで見える栄養状態の改善はもちろんですが、患者に食の喜びを感じてもらえたとき、NST活動のやりがいを感じています。



## 院外研修報告

### 看護必要度評価者院内指導者研修（6/3）

回復リハビリ病棟 小山恵子

6月3日に看護必要度評価者院内指導者研修を受講しました。

日々なんなく行っていた評価でしたが、自分達がやっていることを看護必要度として評価したものが診療報酬として算定されるため、病院にとって重要な評価であることが再確認できました。講習の中で、近々全病院を対象に外部監査が入るという情報がありました。正しく評価できていない病院は算定に値しない分の報酬の返還を求められる場合もあるそうです。看護必要度は、一部の人だけが正しく評価できればいいというものではないため、病院全体で全てのスタッフが正しく評価できる力をつけていく必要があります。今回学んだことを常に意識しながら日々の評価を行い、また、病棟のスタッフにも還元ていきたいと思います。

### ストーマリハビリテーションの基本（7/7）

8階東病棟 畠中亮祐

7月7日に鹿児島大学医学部保健学科にて「ストーマリハビリテーションの基本」の研修を受講させていただきました。研修ではストーマの基礎から術後の機能障害・オストメイトの体験講話、社会保障、スキンケア、ストーマケアの実技など多くの事を学ぶ事ができました。今までストーマを増設する患者と関わる機会がほとんどなかったため、自分のケアに自信が持てませんでしたが、今回の研修で学んだ事を復習し、振り返りを行い他スタッフへも指導できるように知識、技術の向上に努めていきたいと思います。

### 第39回鹿児島減菌業務研究会（7/21）

手術室 長倉周作

医療の現場で、数多くの医療機器が再処理し使用されていますが、これらは医療機関各々に委ねられているのが現状です。例えばセッシ・カップ・アンビューバックなどといった中材物品の洗浄・消毒・滅菌の方法や有効期限の設定などです。今回参加した研究会は、そういった各医療機関の現状と課題を報告し合い、ばらつきを狭め適正化を図っていく目的で行われました。

みなさんは中材物品に対して本当に滅菌されているか疑問に感じたことがありますか。実際はほぼ100%滅菌の状態となります。よって適切な洗浄・滅菌・保管が重要となり、滅菌の保障が常に管理されていかなければなりません。

当院では中材業務を外部業者に委託していますが、手術室スタッフも携わることもあります。医療の現場で滅菌業務は、患者の感染制御とサービスにおいて重要な業務のひとつでもあることから、常に100%の状態を目指して取り組んでいきたいと思います。

### アクティブ エイシングリハビリテーション（7/29）

4階西病棟 篠原恵亮

霧島リハビリテーションセンターで行われた公開講座に参加しました。内容は、リハビリテーション概論から脳卒中の神経生理・合併症、高次脳機能障害、リハビリテーション看護、運動訓練の実技指導でした。

脳卒中の患者の症状でよく見るのが高次脳機能障害です。様々な症状があり訓練の方法もいろいろありますが、殆どがリハビリスタッフに任せているのが現状にあります。看護師でもできるリハビリもあるため看護計画を立て、実践できたら良いと思いました。

合併症では、排尿障害や嚥下障害などがあり、排尿状態を観察したり、内服薬での治療が必要で、嚥下障害では体位の調整・食事の形態・介助やペースを工夫して誤嚥に注意していく必要があることを学びました。

最後にポジショニング（良肢位保持）です。急性期からの良肢位保持が重要で、ウェルニッケマンの肢位にならないように、大・小の枕をうまく使用していく必要があります。

車椅子の移乗や歩行訓練、ベッド上でのリハビリなど実践に近い実技指導があり、自分がいつも行っている方法と照らし合わせることで再確認し、患者に不安を与えないような方法があることも学びました。

今回の学びを活かし、病棟リハビリができるように働きかけていきたいと思います。

## ミニナラティブ

### 手術室 川畠晶子

私がこの病院に勤め始めたばかりのことです。産婦人科での経験しかない私にとって一般病棟の患者さんの看護をすることは私にとって驚くことが度々ありました。その中で一番印象に残っていることが呼吸器科の80歳代のAさんのことです。記憶が曖昧な部分もありますが、この時のことを話したいと思います。

ある日の夜勤のことですが、その日は比較的落ち着いていた夜勤でした。私は巡回の時、1人1人よく休まれている、変わらないと思いながら巡回を行っていました。Aさんも私が訪室したこと気付かれず、よく休まれていました。他の患者さんからコールがあり、用事を済ませナースステーションに戻ろうとしたところ、普段は車椅子を利用しているAさんが廊下に立っていました。「Aさん、どうしたんですか」と、声を掛けたところ、ビックリされ尻もちをつかれました。すぐに駆け寄り「大丈夫ですか」と声を掛けましたが、痛がる様子もなかった為、他のスタッフと一緒にベッドへ移動し、主治医へ報告しました。念のためレントゲンを撮るように指示があり、撮ったところ大腿部骨折をされていました。Aさんに、「私が声を掛けたせいですね。ごめんなさい。」と謝りましたが、Aさんは「大丈夫だよ。」と言って下さいました。翌日、ご家族にも「私が、声を掛けビックリさせてしまってすみませんでした。」と謝罪し、ご家族も納得して下さいました。

Aさんは、軽度の認知症がありましたが、オムツだから、車椅子だからと言う私の思い込みや経験の浅さから安易に声をかけてしまった事で転倒したのではないかと考えます。いろんな患者さんがいて、どんな行動を起こすのか想像を超える患者さんも時々いらっしゃいます。自分の固定観念で患者さんに接することは、大きな危害を加えることになることを学びました。



## マイブーム 3階西病棟 飛松美奈子



私のマイブームは写真を撮ることです。特に上手に撮る方法を知っているわけではありません、自己流です。初めは10才年の差がある妹が、可愛くて可愛くて成長の記録を残したいと思ったことがきっかけでした。写真だけでなくビデオカメラまで購入して運動会や卒業式まで出かけては撮り、それを後で家族で見て大笑いして小さい頃の思い出を懐かしんでいます。風景や人、動物、何でも撮ることが大好きですが、最近は特に空を撮ることが好きです。空は場所を選ばずその時々の色や光や雲の形でいろいろな表情を見せてくれます。仕事の帰りでも空がキレイだとつい寄り道して写真を撮りに行き、撮った後はそこでボートをするのが私のリラクゼーション法でもあります。もっともっとキレイなものを撮りたいと思い、最近一眼レフカメラを購入しました。私の一番の宝物です。(^^)これが普通のカメラとは違い下手くそでもプロのように(?)キレイに撮ってくれるので、一枚一枚撮るたびに感動しています。その時の風景や出来事を記録に残すことは、その時の気持ちを思い出したり、今の自分に元気をくれたり、笑顔を与えてくれます。

また、キレイなものを見るることは心にとってもプラスの働きがあると思います。  
これからもいっぱいきれいなものを撮って心を洗濯します。☆(^^)☆



## 心に残る映画 3階東病棟 瀬戸口久美子主任

みなさんはお気に入りの映画がありますか？好きな映画は？と聞かれて迷わずこれと言える映画があるでしょうか？私は、もともとティム・バートン監督作品が好きで、ナイトメア・ビフォア・クリスマス/チャーリーとチョコレート工場/アリス・イン・ワンダーランドなど映像が奇麗で大好きです。少し前いや大分前に流行ったロード・オブ・ザ・リングも長編ですが仲間との友情が描かれており好きな映画です。でも一番好きな映画は？と聞かれるとき、「ショーシャンクの空に」刑務所が舞台ですが、夢も希望もない場所で希望を捨てずに、その後第2の人生を歩むお話です。ティム・ロビンスやモーガン・フリーマンなど名優が出ており刑務所が舞台なので血を見る場面も多いですが、勇気と希望をもらえる映画です。機会があったら一度観てください。



## 編集後記

猛暑だった夏の今年でしたが、先日の大型台風が去ったあとから、朝晩の涼しさを急に肌で感じるようになりました。夏の疲れが出たのでしょうか、体調を崩している人もチラホラ見かけます。十分なケアをしてください。これから季節、体調管理には十分注意しましょう。

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、季節の変化を見ているかのように、我が家家の庭先の彼岸花が芽を出し始めました。今年度ももう半年が終わろうとしています。  
皆さん！自分が立てた今年の目標の進展状況はいかがでしょうか？中間自己評価を行い、後期に向けて”目標達成”できるよう再確認や立て直しをして行きましょう。

(小牧)

